

若事研本報

No. 1 9 1

編集・発行

岩手県公立小中学校

事務職員研究協議会

総務部

平成26年11月28日

第45回岩手県公立小中学校事務研究大会を終えて

岩手県公立小中学校事務職員研究協議会

会長 高橋 広道

多数のご来賓をお迎えし、第45回岩手県公立小中学校事務研究大会を開催することができました。ご共催をいただいた岩手県教育委員会をはじめ、関係機関の皆様、ご助言をいただいた助言者の皆様、運営に協力いただいた会員の皆様に深く感謝申し上げます。参会の皆様から概ね好評だったことに安堵しています。また、レセプションへも数多くの参加があり、交流が深められたことも大会の成果の一つであると考えています。

分科会では、遠野・和賀・胆江の各支部から研究発表をいただき、「誰もが発言できてよかった」「素晴らしい進行だった」「情報管理の見直しが必要と気付いた」「実践しようと思った」「目標を持って仕事をし、改善につなげている」「助言者のお話が大変良かった」等の感想が寄せられています。

全体研究会では、研究部が行った県事務研アンケート結果の分析から「いわてのグランドデザイン」-みんなでできる実行策-が説明不足であったことが明らかとなり、経緯や内容の解説、取り組み方などについて、全事研副会長 阿部貴子さん（見前中学校）を交え、会場からの声も取り入れながら進めました。「共通理解が図られた」「できることからやってみようと思う」との肯定的な意見を多数いただいています。

私たち学校事務職員が、「目的・目標」をしっかりと意識し、「いきいき」と学校の中で働く、そのことを実現・実践していくことを「研究大会」において確認できたことは研究大会の目的を達成したと自負しています。

大会までの準備や当日の運営には研修部員をはじめ、若手事務職員の皆様のご協力をいただきました。これからの岩手の学校事務職員は「世代交代」を迎えます。「若者」がいろいろな経験を積む場面をつくるのが「研究大会」の役割であると心から思っています。

アンケートではいろいろなご意見が寄せられました。改善できるところ、工夫できるところを次回の大会に活かし、参会の多くの皆様が「参加してよかった」「また参加したい」研究大会にしていく所存です。

あらためて、ご支援・ご協力をいただいた皆様に深く感謝申し上げ、御礼といたします。



第45回岩手県公立小中学校事務研究大会

平成26年10月10日(金) 会場：いわて県民情報交流センター

今年の研究大会は、県外事務職員、教育事務所からも参加があり、合わせて309名の参加者となりました。

開会行事終了後、オリエンテーションに引き続き、「学校事務の手引」第五次改訂版について、また、岩手県公立小中学校事務職員研究協議会発足50周年記念事業についてのお知らせがありました。

第Ⅰ分科会 遠野支部

学校事務職員が共同実施をツールとしてどんな学校経営参画ができるか
～教育業務改善に取り組む元気な事務職員を目指して～

小中学校と遠野市教育委員会との関係が大変よく、業務改善もみんなの力で解決しようと取り組んでいるのが素晴らしいと思いました。また、「人の話に耳を傾ける」「情報をつなぐ」ことは、この仕事を続けていく上でとても大切なことだと自分自身も思っています。

ワールドカフェ方式は初めて参加しましたが、たくさんの方々と話すことができました。皆さんが行っていること、感じていることを聞くことができ、勉強になりました。発表者、司会者、ホスト役の方々が気持ちよく、元気をもらえた分科会でした。(参加者より)



第Ⅱ分科会 第1分散会 和賀支部

「情報班としてできる教育支援」

～教育機器の利用促進と安全なデータ管理を目指して～

電子黒板等、教育機器利用について他市町村の状況を交流することができました。「使い方がわからない」「必要性を感じない」などの理由により活用している教職員が少ない、このような状況で今後活用を進めていくには事務職員は何をすべきか、参考になりました。



データ管理については、不安を感じつつ具体的な対策をとることもなく、意識が低かったと反省しています。助言者の先生からお話いただいたように、この分科会で得た情報を広げられるよう取り組むことができればと思いました。

(参加者より)



第Ⅱ分科会 第2分散会 胆江支部

実践力を高める研修活動

～子どもの豊かな育ちを支援する学校事務の実現を目指して～

『自己目標設定シート』『えがおシート』を活用した具体的な目標を立てての取り組みや、実践例がたくさん資料として掲載されていてわかりやすかったです。自分の学校に置き換えて考えることができました。

目標設定、課題設定、取り組み方についても、グループ研修を行うことで参考となる意見を聞くことができたり、他の人の目標や取り組みを知ることができたりと、確実に改善につながるよう進められていると感じました。(参加者より)



全体研究会

『いわてのグランドデザインの 今 と これから』

研究大会の開催周期や事務職員を取り巻く課題、描く事務職員像など様々な観点からご意見をいただき、これからの県事務研の方向性をより良いものに進めていくために実施した学校事務職員アンケートの結果分析から始まり、三つの特別委員会答申の背景、「いわてのグランドデザインーみんなのできる実行策ー」、全事研グランドデザインの状況や将来像について説明がありました。

「いわてのグランドデザインーみんなのできる実行策ー」の「経験年数別職務標準表」について、現在の勤務校での実際とこれまでの体験をもとに、実際この表で、何ができているのか、何がまだなのかを会場の参加者を交えて検証を行いました。また、「学校事務経営計画」は、仮想の学校の学校教育目標や具体的活動について、その場で実際に記入しパワーポイントで映し出しました。

学校に戻り、ぜひトライしていただきたい三つのことも話されました。

- ・ 経験年数別職務標準表で自分が今取り組んでいる業務に○印、次に取り組んでいきたい部分はどの業務かを考え、☆印をつけてみる。
- ・ 学校事務経営計画のひな型を使って、自分の学校の教育目標や重点事項を入れ、そこから関連して取り組む学校事務を自分なりの言葉で入れてみる。
- ・ 自分の目指す事務職員像をしっかりと描いてみる。そしてその姿に向かって、何から取り組めばいいのかを考えてみる。

改めて新しいことに取り組むべきだということではなく、自分が描いている「なりたい事務職員像」に向かうために何をすればいいのか、そのことがそのまま実行策に繋がっているのだと説明がありました。



「学校事務の手引」展

「学校事務の手引」は第五次の改訂をむかえ、今年度発行となります。「こんなときは～事務事例集～」の事例が増え、災害にあった時の対応についても追加して掲載されます。

手引展では、貴重な初版から第四次改訂版までが実際に展示され、手に取った皆さんから「自分の生まれた年に発行されている!」「表紙の色、懐かしいね」との声も聞かれました。



編集委員の皆さん

いわての学び希望基金

あたたかいお心ありがとうございました。ご協力いただいた募金額は1,200円でした。

東日本大震災によって親を失った子どもたちが学校を卒業し、社会人として立ち立つまでの支援を行う基金です。岩手県公立小中学校事務職員研究協議会は今後も「いわての学び希望基金」に協力していきます。

来年度の研究大会は 平成27年11月6日(金)です。

夏季研修講座 平成 26 年 8 月 1 日(金) 会場：プラザおでって

選択研修

講座Ⅰ－A「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の準備状況と学校教育に期待されること」

岩手県国体・障がい者スポーツ大会局 副局長 岩間 隆 氏

希望郷いわて国体は復興支援への感謝の気持ちや、復興に力強く前進する被災地の姿を伝える大会となり、大震災からの復興のシンボルとして復興の力、原動力となる国体を目指しています。

また、子どもたちが「自分たちも出たい」と目指す大会であり、この国体で活躍した子どもたちが次は東京オリンピックで活躍することとなる、未来へとつながっていく大会です。部活動等で練習に打ち込んでいる子どもたちの姿が目に見えました。

国体が行われ、努力を重ねる子どもたちのことをこんなに近くで応援できるのは、学校に勤務する者としてとても幸せなことではないかと思いました。 (参加者より)

講座Ⅰ－B「国際リニアコライダー誘致に伴う県の取り組みと想定される経済効果や地域活性について」

岩手県政策地域部科学 I L C 推進室 主事 高橋 秀和 氏

「国際リニアコライダー」という言葉はよくきいて知っていましたが、恥ずかしながらそれが何なのかよく分らずにいました。そこで、今回その話を聞けるということで張りきって参加してみました。結果、そのものについてはやはり難しく「すごいもの」ということしか分かりませんでした。その施設が岩手にできたら素晴らしいだろうなどということが分かりました。

世界の「すごいもの」が近くにあり、世界の「すごい人」達と接するチャンスがあり、岩手に居ながら世界中の人々と交流できるなんて素晴らしいですね。多くの異文化の人々に接したり・物を見たり・触れたりすることで、子供たちにもいろいろな可能性がひろがるだろうと思います。学校も変わって行くのだろうと思いますが、良いほうにとらえ、変化していく生活を楽しみたいなど、期待してしまいました。 (参加者より)



全体研修

講座Ⅱ『『人が動き出すコミュニケーション』～プレゼン・関係形成、人材育成に生かす！！

テクニックだけではないコミュニケーション～

コミュニケーショントレーニングネットワーク 認定講師 佐藤 和美 氏

参加した皆さんと話し合い、先生のお話を伺って、職場でも家庭でもお互いを尊重し合い、承認されるということ、自分の行動が結果に結びついていくこと、貢献できる喜びを感じられることが大事なのだとわかりました。

みんなで話し合い、それぞれの声に耳を傾け承認し、任せてやらなければ人は育たない。行動している姿を感謝の気持ちで見守って、信頼しなければ人は実らない。佐藤先生の言葉一つ一つが心に残る講座でした。「さっそく、今日から、何かを始めよう」と思いました。 (参加者より)

第 4 6 回全国公立小中学校事務研究大会静岡大会

平成 26 年 8 月 6 日(水)～8 日(金) 会場：静岡市清水文化会館

第 4 6 回全国研究大会静岡大会は静岡市清水文化会館マリナートを主会場として開催されました。静岡県での開催は昭和 6 2 年以來 2 8 年ぶり 2 回目となりました。岩手県からは 2 5 名、全国から 2, 5 0 0 名を超える参加がありました。

開会式

横山会長から「地域とともに子どもの生きる力の育成のため日々の実践を活発に協議し研鑽を深め、全国の小中学校に学ぶ子どもたちのために共に語り全国に発信してください。」とあいさつがありました。

全体研究会

パネルディスカッション テーマ「学校マネジメントと人材育成」

地域とともにある学校づくりを推進する学校と地域との連携・協働の在り方を考え、連携における人材育成の課題や事務職員の役割について議論が交わされました。

- ・「今自分にできることは何か」自分の力を高めることが学校のためになる。
- ・コミュニティ・スクールのコーディネーターを事務職員が担っている。これは学校経営にかかわるチャンスであり、事務職員の仕事にしていけば良いのではないか。
- ・地域とともにある学校づくりをはずしては、これからの学校は成り立たない。このことを教職員が納得して後押しするぐらいの意識改革が必要である。
- ・地域とともにある学校づくりを推進する過程で、学校と地域の隙間をうめる人が必要になる。
- ・以前は積み上げ型の研修方式であったが、60歳になったときにはどのような力が必要か、ゴールを想定した逆算の研修方式を設計していくべきである。
- ・資質能力向上のために研修を自ら発信し、積極的に取り組んでアピールして欲しい。

このように、前半はコミュニティ・スクールの実践を通し学校を取り巻く現状や課題について、4名のパネリストから意見をいただきました。後半では、学校・地域に必要な人材の育成における課題や事務職員の役割は何であるかということを中心に活発な討議が行われました。（参加者より）

分科会 第1分科会（山梨支部）

「やまなし」人づくりチャレンジプラン

－信頼される学校事務 スクールソムリエをめざして－

「甲州弁」のラジオ体操で体をほぐし、和やかに分科会が始まりました。

全県組織確立・研修制度確立・学校経営参画の三つの実行策を基本とするグランドデザインが紹介され、「キャリアアップ・ファイトシート」を参加者も実際に体験しました。

午後は助言者の方から学校事務職員のキャリアアップのお話をいただいた後、「考えよう！私のキャリアアップ、みんなのキャリアアップ」のテーマで、ファシリテーター役のホストを中心にグループ討議が行われました。ワールド・カフェ方式でメンバーを入れ替えて話し合いを行うことで、リラックスした楽しい雰囲気の中、たくさんの意見交換ができ、全国の学校事務職員がつながるための「とき」を共有できました。（参加者より）



三保の松原（羽衣の松）

残念ながら富士山は見えず…



静岡おでんと清水もつカレー



第20回東北地区公立小中学校事務研究大会青森大会

平成26年10月2日(木)～3日(金) 会場：青森市民ホール

第1分科会B

『学校事務職員の標準的職務と経営参画を考える』

経験年数（職名）と職務をイメージする ～いわてのグランドデザインの具現化と共に～

発表者 九戸村立伊保内小学校 事務主査 下村 隆さん

司会者 九戸村立江刺家小学校 事務主査 荒木 裕之さん

環境の変化（ジョブローテーションの導入や経験豊富な事務職員の退職）により、これからの学校事務職員像が描きづらい状況です。「採用から退職まで」「主事から主任事務主査まで」の経験と職名にあわせた職務イメージを学校全体で作り上げることができれば、誰もが標準的職務を認識できるようになり、自分たちの意識の向上が図られると共に、適正な事務分担による組織的事務運営と経営参画が可能になると考え、「いわてのグランドデザイン」の具現化に向けた取組と共に研究推進してきたことについて発表されました。

第5分科会

異校種間勤務の経験を通して小中学校事務を考える

発表者 一関市立滝沢小学校 主事 氏 家 辰 徳さん

ジョブローテーションを経験した若年層の事務職員の多くが「異動してからの戸惑いは大きい」と感じています。環境の違いを軽減できると「戸惑い」も軽減できると考えます。

小中学校と県立学校の勤務経験の中での課題・「戸惑い」等について皆で話し合い、共有し、さらには今の職場環境でのやりがいを感じていただきたいと発表されました。

功労者表彰 おめでとうございます

岩手県から3名の方々が表彰されました

二階堂光江 氏（盛岡市立向中野小学校 主任事務主査）
退職時

伊藤 義幸 氏（八幡平市立松尾中学校 主任事務主査）

鈴木 厚子 氏（奥州市立水沢小学校 事務主査）



岩手県公立小中高等学校事務職員連絡協議会

平成26年8月29日(金) 会場：サンセール盛岡

この連絡会は、岩手県公立学校事務長会、岩手県公立高等学校事務職員協会、岩手県立学校事務職員組合、岩手県教職員組合事務職員部、岩手県公立小中学校事務職員研究協議会の5団体がそれぞれの活動について情報交流し連携を深め、事務改善等につなげるために行われています。

6級格付けの取り組み、人事異動やジョブローテーション、県立学校の新しい授業料制度「高等学校等就学支援金」について情報交換が行われました。

各種セミナーのご案内

『県事務研セミナー』

日時 平成27年1月9日(金) 13:15~

会場 盛岡劇場「タウンホール」

演題 「つながる」コーディネートは
事務職員の仕事

講師 徳島県 東みよし町立三好中学校

主査兼事務長 赤松 梨江子氏

『全事研セミナー』

日時 平成27年2月13日(金) 10:00~

会場 川崎市教育文化会館 大ホール

内容 文部科学省行政説明、
全国研究大会熊本大会報告、
全事研活動報告、
「学校のマネジメント力と学校裁量予算
制度」、
「カリキュラムマネジメントと一体となっ
た条件整備」

県事研50周年記念誌

データを募集しています

『県事研の歩みを視覚的に残したい!』という思いで、現在、記念誌の企画に取り組んでいます。

- ・過去の研究大会実行委員会で撮影した写真
 - ・研究発表用に行った意識調査等のデータ
 - ・子どもの姿や学校の風景 等々
- 写真やデータをご提供ください。

募集期間：平成27年2月末まで

提供先：各支部の50周年担当窓口
または記念誌編集委員会事務局
(盛岡市立上田中学校 浅沼好也)

お待ちしております!

【50周年記念誌編集委員会】

